

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－
ワークショップ実施計画書

制作団体名	社会福祉法人トット基金
公演団体名	日本ろう者劇団

内容

狂言師とろう者劇団の俳優の進行によって、楽しみながら手話を学んでいきます。

①手話にふれてみよう

手話の知識や歴史、魅力などを話します。

まずは手話はどんなものであるか知ることから始めます。

- ・講師による自己紹介。
- ・手話とろう者について質問形式で講義
(手話の歴史、ろう者の人数、ろう者の暮らしなど)

②手話を学んでみよう

基本的な手話を皆さんで学んでみましょう。

- ・挨拶や数字、人の名前などの手話の表現を学びます。

③身体表現ワークショップ

手話を用いたさまざまな身体表現を用いて、ゲームのように楽しみながら、聞こえる人・聞こえない人の垣根を越えた交流を体験しましょう。

- ・動物園のイメージで、講師の手話がどんな動物を表すかをクイズ形式でろう者に伝えてみる。

タイムスケジュール（標準）

①手話に触れてみよう（30分）

②手話を学んでみよう（30分）

③身体表現ワークショップ（30分）

派遣者数

主指導者1名＋副指導者2名＋手話通訳1名 計4名

学校における事前指導

特になし

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－
本公演実施計画書

制作団体名	社会福祉法人トット基金
公演団体名	日本ろう者劇団

演目

◆第一部 手話狂言「附子」

- ・お話：狂言の見方、手話狂言の魅力、「附子」のあらすじなどを、ろう者劇団の俳優と狂言師によって、実演を交えながら、手話と言葉でわかりやすくお話しします。(20分)
- ・手話狂言「附子」の上演：ろう者劇団の俳優による手話の演技に、狂言師が言葉をあてて、聞こえる人も聞こえないひとも同じように鑑賞できます。(25分)

◆第二部 手話狂言ワークショップ

- ・ワークショップ：狂言の所作・台詞、手話狂言の演技を鑑賞者全員で体験します。(25分)
- ・Q&Aコーナー：生徒からの質問に出演者が答えます。(10分)

派遣者数

出演者8名＋手話通訳1名＋スタッフ4名 計13名

タイムスケジュール（標準）

お話（20分）、手話狂言「附子」25分、休憩（10分）、
ワークショップ（25分）、Q&Aコーナー（10分）
計90分

実施校への協力依頼人員

特になし

演目解説

◆登場人物

太郎冠者、次郎冠者、主人

◆あらすじ

用事で外出する主人が、太郎冠者と次郎冠者に留守番を言いつけます。そして手桶を持ち出し、この中に「附子」が入っていて、この方から吹く風にあたっても滅却する（死んでしまう）ほどの猛毒だから気をつけろといいます。

主人の出かけた後、二人は「附子」に興味津々。恐いもの見たさで、毒気に当たらないよう扇であおぎながら「附子」に近づき、桶の蓋を取ってみると、なかには黒いドロリとしたものが入っています。これを見た太郎冠者は、「旨そうだから食ってみよう」と言い出し、次郎冠者が止めるのも聞かず食べてしまいます。

実はこれは砂糖でした。当時砂糖は大変な高級品。主人は二人を砂糖に近づけないように、附子だと嘘をついていたのでした。砂糖とわかった二人は、奪いようにしてすっかり平らげて桶を空にしてしまいます。さて困ったことに、砂糖を食べてしまった言い訳を考えなければなりません。

そこで二人は何を思ったか、主人の大切にしている掛け軸を破り、大天目（天目茶碗）を割ってしまいます。はたして二人はどんな言い訳をするのでしょうか？

◆みどころ

ろう者の俳優による手話の演技に、狂言師が声を当てることによって、聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しめる、「手話狂言」の代表劇な演目の一つです。会場に設置した能舞台の上で、したたかに、たくましく生きる中世の人物像が笑いとともに描かれます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- ・お稽古（体験）の基本である挨拶から始めます。皆さんで「よろしくお願ひします」と手話と声であいさつしましょう。
- ・次に狂言の構え（姿勢）・運び（すり足）・台詞などお稽古して、狂言の初歩的な所作・発声などを身につけます。
- ・事前のワークショップでおこなった手話の体験からさらに進んで、手話狂言の表現を学んでもらいます。
- ・二手にわかれ、手話狂言の一場面の台詞の掛け合いを皆さんで演じるなど、理解を深めながら体験を進めます。
- ・最後の挨拶も大事です。「有り難うございました」と手話と声で挨拶しましょう。

児童生徒とのふれあい

狂言師と、ろう者の俳優たちによって、生徒に向けたワークショップの中でふれあいの場を設けます。

狂言師が日頃行なっている稽古そのままに、狂言の台詞や動きを学んでもらいます。

また、ろう者の俳優たちの指導によって、ごく簡単な手話を通して、手話によるコミュニケーションを学んでもらい、狂言や手話に関する生徒たちのさまざまな質問や疑問に、出演者が答えます。